

平成 27 年度 地域スポーツクラブマネジメントセミナー 第 5 回 実施報告 (1/23 実施)

「地域との連携について考える ～我がまちの総合型クラブになるために～」

講師：長谷川 幸介 氏（茨城大学社会連携センター 准教授）

今回の第 5 回地域スポーツクラブマネジメントセミナーは、「地域との連携について考える」というテーマについて、茨城大学の長谷川先生に講義をしていただきました。

初めに、先生の体験談から現代社会における「地域」の重要性についてお話いただきました。総合型地域スポーツクラブは、サポーター（助ける人）ではなく、パートナー（一緒にいる人）として地域に存在できるかが重要であると仰いました。地域の重要性について、「社会は未熟な人類が発明した幸せ装置であり、地域はその重要な要素である」とされ、「4 つの縁（血縁、地縁、友縁、職縁）」の視点からクラブの役割や地域・行政との連携についてお話いただきました。また、子どもが成長していく過程で必要なものとして「家庭・学校・地域」を挙げ、子どもが成長する場としての地域スポーツクラブの重要性が説明されました。

クラブの経営資源に関するお話で、過疎地域を例に、人口を増やすのではなく、一人の「縁人口（人と人のつながり）」を増やすことの重要性を説明されました。そして、カネは人と人がつながった証であるという考え方を教えていただきました。

スポーツの「適応」と「開発」についてのお話では、競技スポーツのようにルールに合わせて自分をつくるのが「適応」であるが、クラブには地域のシーズをニーズに変えて具現化し、スポーツ文化を創ってゆく「開発力」が必要であるとお話いただきました。そのためには地域の「4 つの縁」とつながりを持つことが必要であり、クラブと縁をつなげることがクラブマネジャーの役割の一つで、無縁社会から「4 つの縁」が密につながった「支縁社会」へ変えていくことこそ、今の社会に必要なことであると述べられました。また、文科省からの補助金だけに頼るのではなく、健康・介護の問題に取り組めば、厚労省からも補助金がでることから、地域や社会からクラブに求められている役割を分析し、使える資源を生かしながらクラブ運営を行うことの重要性が理解できました。

最後に、人同士をつなげ、一丸となり課題解決を行うための手段としての「棚卸しワークショップ」の方法を学び、講義を通して、我がまちの総合型クラブになるための知識や、課題解決に向けた手立てが学べました。

